

(特集) 大学改革の原点を探る

今、学生に求められているもの

岡 本 竜太郎

昨年12月13日、愛媛大学教養部講義棟にて経済学会主催による公開討論会が行われた。この討論会の主旨は学生と教官がそれぞれ抱えている大学像を公開の場ではっきりと提示し、それについて意見を交換しあうものであり、今後このような経験を踏まえてどのようにことが推進されていくのか—学生の立場から考察してみても非常に楽しみなことである。ではここで、このたびおこなわれた公開討論会を媒体として私個人なりに感じたことについて述べてゆきたい。

まず、今回の討論会でも言われたことであるが、学生と教官の大学に対する意識の差をどうするかということである。これは非常に重要な課題である。現状を見るに、今のほとんどの学生は大学になにも求めてはいないし、逆に教官側も今の学生は無気力だと決めつけてしまって学生になにも求めることなく平凡々と講義をしている教官が多いように見える。

これは教養部の講義で経験したことであるが、ある教授の講義に対して疑問を抱き質問に行ったことがある。そのとき返ってきたものはあまりにもくだらない答えと熱意のない姿勢であった。僕はこのことに非常に落胆し、失望しながら帰った思い出がある。

確かに、僕自身が無知であるが故にこの教授の崇高な理論をほとんど理解できなかったがためにこの教授に対して自ら失望した可能性もあると思う。しかし、主観論ではあるがあえて言わせてもらえば、このときの答えは本当に理論のごり押しで、僕の疑問などあってないようなものだった。僕は大学にすごく

期待していたほうだったので、その期待できる大学の教授ならすばらしい理論を持って僕を迎え入れてくれるだろうと完全に思っていた。しかし、現実はそのようではなかった。楽しかったのは新歓期をいれた4月末までで、それ以後は、大学という存在は僕にとって非常につまらなくなってしまった。その頃になると、周囲の友人たちも大学に対する不平不満を言いだし始めた。

ここに完全たる意識の差が出現してくるのである。しかし、これは学生側に非があるように思える。それはまず大学はなにか自分に与えてくれるだろうという認識の甘さとそのように理想化した大学がなにも与えてくれない現状において自分の無力さを大学側に責任転嫁していることである。

実際、僕は不平不満を言ったりもしたがそのようなものは時には効果があるかもしれないがたいていの場合はつまらなく無意味なものだと定義していたので、なにか別の考え方によってこの課題を解決していこうと思った。そこで、責任を外に求めるのではなくて自己の内面に求めることにしたのである。つまり、つまらないと定義してしまっている大学が存在するから自分がつまらないのではなくて、自分がつまらないから自分を内包している大学そのものをつまらないものだと錯覚的に定義しているのだと思うようにした。この考え方は非常に的を得ているものがあつた。なぜなら、大学という空間は非常に自由であり、なおかついろんなものを所有している。しかし、大学はなにも与えてくれない。大学というものはその個人個人が必要としているであろうものを内包しているに過ぎないのである。だから、自ら意欲的に活動することによってのみしか学ぶことができないのである。そして、ここでいう学ぶということは単に机に向かって勉強するだけのことをいうのではなくて、もっと広義的な意味を含んだ確固たる人間形成のための勉強である。だから、今まで従来経験してきたであろう勉強方法、すなわち課題を与えられそれに向かって盲目的に勉強していくことは大学という空間においては、絶対的な選択肢になることなくむしろ一つの選択肢に過ぎないことを認識しなければいけない。

では、そのような従来からの勉強方法から解放され、自由に行動できるはずの大学生がなにか元気がなく、相変わらず従来からの勉強方法に束縛されがちなのはな

ぜであろうか？ それは自己の所有している選択肢の数の少なさが原因であろう。すなわち、選択肢の数が多ければ多いほど、それだけいろんな方法手段を用いることができるはずであり、反対に少なければ少ないほど、従来の方法に固執しがちになるのである。ここで留意してほしいのであるが、僕は別に従来の方法に批判的な意見を出してはいるが、この方法そのものを批判はしていない、逆にこの方法に関しては肯定的である。ただ、それだけでは視野が狭すぎるし、創造性に乏しすぎる。だから、それだけしか方法を持ち合わせているのではなくて、それを踏まえたなにかを持ってほしいと言っているのである。

最後に、率直な質問であるが、選択肢の絶対数の少なさに対して一体どうすればいいのであろうか？ 答えは新たに自己のなかに選択肢の数を創造することである。答えを言うのは簡単だが実行し成果を得るのは非常に難しい。しかし、これは僕の経験上のことでもあり皆さん方も経験したことだと思うが、実行したとえ失敗してもそれは気づかないうちに自己のなかに新たな選択肢を創造せしめる場合も多々ある。要は今の学生に求められているものはなにかしてやるぞという意気込みだけなのではなかろうか。そして、この意気込みによっていろいろなことを経験していきながら、人間として成長していくのであろうと私は思っている。